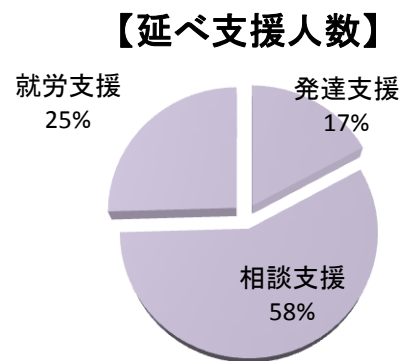
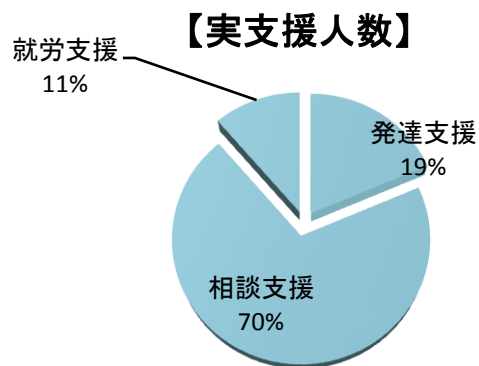


発達障害者支援の傾向分析(平成20年度)

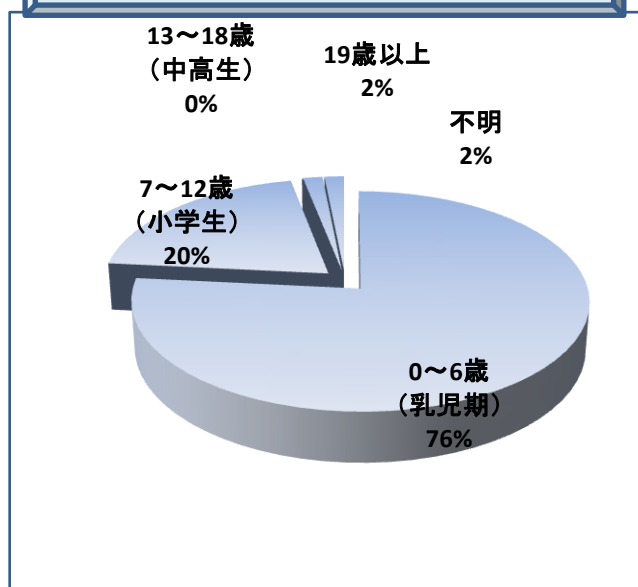
(1) 基礎データ

	発達支援	相談支援	就労支援	合計
実支援人数	64	241	39	344
全体の割合	19%	70%	11%	100.0%
延べ支援人数	161	542	240	943
全体の割合	17%	57%	25%	100.0%
一人当たり支援平均	2.5	2.2	6.2	2.7

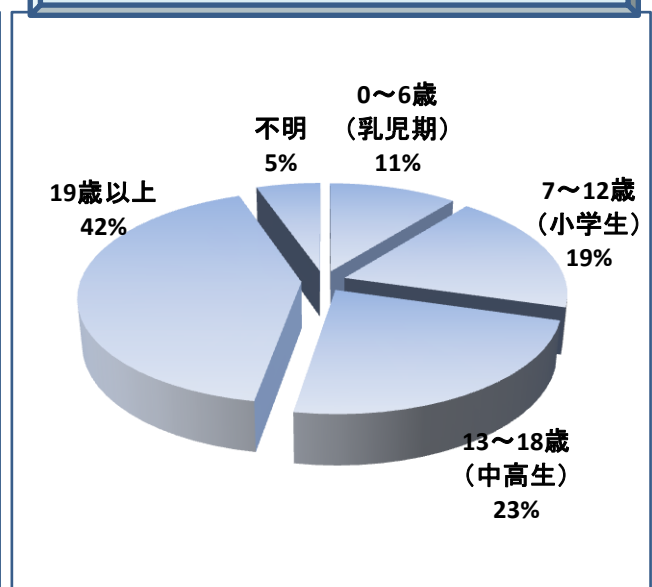
(2) 実支援人数と延べ支援人数の支援比較



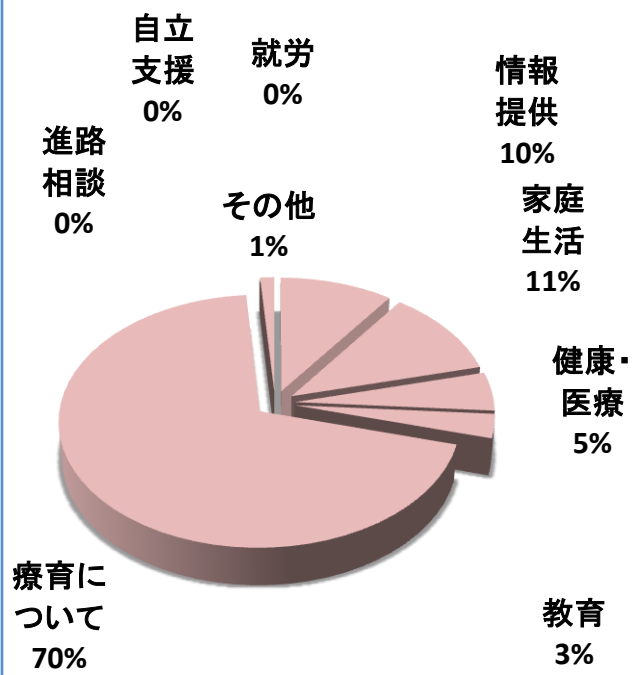
(3) ー① 発達支援の年齢別(実人員64名)



(3) ー② 相談支援の年齢別(実人員241名)



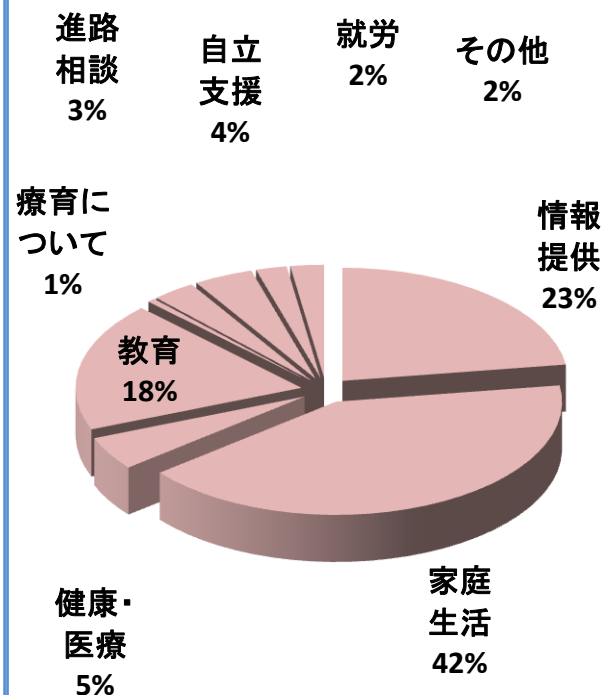
(4)―① 発達支援の相談内容(延べ161件)



【発達支援で多い項目】

○療育について	70%
○家庭生活	11%
○情報提供	10%

(4)―② 相談支援の相談内容(延べ542件)



【相談支援で多い項目】

○家庭生活	42%
○情報提供	23%
○教育	18%

発達障害者支援の傾向

【発達支援について】

- 乳児期における療育内容についての相談が圧倒的に多い。
- 家庭生活における相談や、関係機関・施設の情報提供が次いで多い。

【相談支援について】

- 相談件数そのものが多く、幅広い年齢層からの相談に対応している。
- 家庭生活における相談が4割強を占めている。
- 関係機関・施設に関する情報提供や、学校での不適應に関する相談が次いで多い。

【就労支援について】

- 一人当たりの支援回数が他と比較して多く(6.2回/人)、継続的な支援が必要とされている。
- 本人からの相談件数が多い。